

鳥取大学附属図書館公開展示

郷土の文化人たちⅡ

－江戸から明治の画家たち－

期間：平成13年11月3日（土）～4日（日）

9:00～17:00

会場：鳥取大学附属図書館玄関ロビー

鳥取大学附属図書館

2001

ご挨拶

このたび鳥取大学附属図書館では、「郷土の文化人たちⅡ－江戸から明治の画家たち－」と題する公開展示を開催することになりました。

本学附属図書館は、本学教育地域科学部の前身である旧鳥取師範学校が収集した郷土資料を所蔵しております。この中には、郷土に関する文書、写本、刊本の他、旧鳥取藩主池田家関係の書画や郷土の文化人たち（儒学者、国学者、歌人、俳人、書家、画家）の書画が含まれております。

今回は本館所蔵品の中より、江戸から明治にかけて活躍した鳥取の画家の作品を集めて標記のテーマでの展示を企画しました。ご高覧いただき、郷土鳥取の誇りである文化の先達たちについて理解を深めていただければ幸いです。

現在、大学は地域社会との連携強化が要請されております。大学は社会から隔離されたいいわゆる象牙の塔であってはならず、広く社会に開かれ、その研究成果や学術情報資源を社会に還元することが求められております。鳥取大学附属図書館においては、地域住民の皆様にも広く図書館を開放し、本館蔵書の閲覧や貸し出しを行っているところですが、さらにこれを進めるため、今回の展示会を企画しました。この展示会が、本学と地域の皆様との一層の交流の機会となりますようお願いしております。

どうぞ、ごゆっくりご覧ください。

平成13年11月

鳥取大学附属図書館長

高 阪 一 治

展 示 資 料 解 説

①森岡永眠（もりおか えいみん）1802～1858

鳥取に生まれる。名は保友、永眠は号。京都狩野長常の助手を務めた。御即位式の御襖を描く。絵画のみならず金具彫刻でも屈指の名人であった。安政5年享年57歳で没した。展示の絵には飯田年平の賛がある。

②森岡梁海（もりおか りょうかい？）生没年不詳

森岡永眠の門弟。およそ安政年間（1854-60年）頃に没した。

③根本幽峨（ねもと ゆうが）1824～1866

鳥取藩絵師。鳥取城下の商家砂田屋の子として生まれた。幼少の頃から絵を好み、江戸に出て鳥取藩絵師沖一峨について狩野派の画法を学んだ。1858年、優れた画技が認められ鳥取藩絵師となった。数々の優れた大作、小品を残し、43歳の若さで没した。秀峰とともに鳥取狩野派晩年の隆盛期を現出した。展示資料は、橋本秀峰、大岸孤峰、梅翁、文珪との合作で、幽峨以下鳥取狩野派の交流を知る上での貴重な資料である。

④河田樗峰（かわた ちよほう？）生没年不詳

木挽町の人。狩野派根本幽峨の門弟で、明治初年頃の人である。

⑤藤岡神山（ふじおか しんざん）1826～1898

鳥取市下臺町の人。狩野派根本幽峨の門人。

⑥河田翠涯（かわた すいがい）1831～1900

鳥取湯所に生まれる。名は胤直。御徒頭、大目付、町奉行を歴任する。畫を根本幽峨から学び、楼閣山水人物画に巧みであった。また、茶道においても志乃流の宗匠で松月齋と号した。明治33年10月に70才で没した。

⑦橋本秀峰（はしもと しゅうほう）1796～1883

鳥取藩士林淇園の子として生まれ、橋本喜内の養子となった。初名を成章、のち守雄と改めた。通称は斧蔵といい、晩年秀峰と号した。歌を中島宜門、書を住竜齋等に学び造詣が深かった。世子斉訓に書法を教授し、後には広く藩の子弟を教育した。画は江戸の鍛冶橋狩野探淵守真に師事した。1846年鳥取城二の丸の新築に当たっては屏風数枚を描いた。廃藩の後、郡部に移り風月を友として余生を送った。

⑧森本成卿（もりもと せいけい）1848～1905

通常は森本後凋（こうちょう）、号は杜成卿。鳥取藩絵師沖九阜の門弟として、狩野派を深く研究した。1900年、初代京都帝室博物館長兼奈良帝室博物館長。58才で没。

⑨河村芳舟（かわむら ほうしゅう）1879～1963

邑美郡今町（現鳥取市）に河村鉄次郎の二男として生まれる。名は正吉。早くから狩野派の画法を学び、後に東京に出て、狩野派の橋本雅邦の門に入った。兄弟子に川合玉堂がいた。1923年の秋、鳥取市掛出町の妙円寺本堂の襖に半年を費やして大作

を描いている。鶴嶼は芳舟の若い頃の号である。

⑩土方稻嶺（ひじかた とうれい）1741～1807

鳥取藩絵師。鳥取藩家老荒尾家の家臣の子として生まれた。本姓は後藤、初名を廣邦といい、のち廣輔と改める。稻嶺、又は臥虎軒と号した。幼い頃から絵を好み、京都、江戸に出て画技を磨き、画名を挙げた。1798年帰国し藩絵師として召し抱えられた。人物、山水、花鳥、禽獣、虫魚などの画題にも優れ、格調高い作品を描いた。文化4年に67歳で没し、鳥取市の景福寺に葬られた。

⑪黒田稲阜（くろだ とうこう）1787～1846

鳥取藩士。名は文祥、通称を六之丞といい、初め稲葉、のち稲阜と号した。幼少の頃から絵を好み、藩絵師土方稻嶺について写生画法を身につけた。人物、花卉、禽獣はいずれも巧みであったが、鯉の画にはとくに優れ「鯉の稲阜」と称賛されている。画法には近代的空間表現への意識が見られ、装飾性と写実性を快く調和させた作品を多く残している。

⑫土方稻林（ひじかた とうりん）生没年不詳

土方稻嶺（⑩）の子。鳥取藩史に父の没した時 12 才であったとあるので、1795 年頃の生まれである。

⑬青木図南（あおき となん）不詳～1859

鳥取に生まれた。荒尾近江の家臣。柴田義董に絵を学び、京都四條派風の絵を描いた。特に人物画では並ぶ者がないと言われ、真に迫った精巧な絵を描いている。

⑭片山楊谷（かたやま ようこく）1760～1801

鳥取藩士。名は貞雄、通称を宗馬といい、楊谷あるいは画禅窟と号した。長崎の医師洞雄敬の子として生まれた。鳥取に来て茶道家片山宗把の家を継ぐ。画系は長崎派。作品を京都光格上皇に献上し、従五位に叙せらる。人物の頭髪、動物の体毛の微細な表現は「楊谷の毛描き」といわれる技法によっており、構図、彩色は意表をつく効果的表現をしている。また、潤いのある水墨の山水画も残している。

⑮国谷春岱（くにたに しゅんたい）生没年不詳

伯州富永の人。初め鳥山と号し、のち春岱と改める。京都の呉春及び景文の門下で四條派を極めた。

⑯稲岡天真（いなおか てんしん）生没年不詳

南画文人派の人。嘉永・安政（1848-60年）頃の人である。

おことわり

本解説の作成にあたっては、『鳥取縣書畫百藝名人集』大正 4 年郷土史料研究會刊、『鳥取藩史』昭和 44 年鳥取県立鳥取図書館刊、『鳥取県大百科事典』昭和 59 年新日本海新聞社刊、『鳥取大学所蔵文化財整理簡報』昭和 63 年平勢隆郎氏執筆を参考にさせていただきました。